

「赤べこの絵付け(3)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

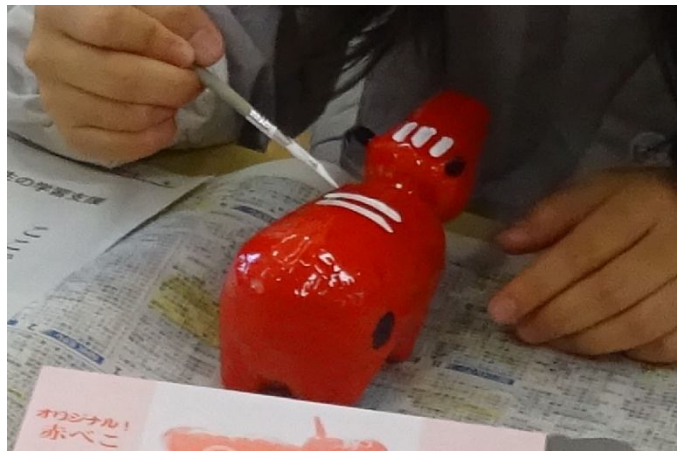
「あかべこの絵付け」は、造形的な活動なので、図工の時間にするのが一番良さそうだ。しかし図工は週に一回しかなく、専科の教員が担当しているので、その枠を使うのは難しい。本年度は月に一回程度、全学年一斉の「学年裁量日」という日を設定しているので、その日の一時間を使うことにした。



まず、「学年集会」を開いて、私が絵付けの説明をした。その後教室に戻って、各班に新聞紙を敷き、その中央にアクリル絵具を置いて、作業を開始した。各自、会津散策の時のパンフレットや資料にある、あかべこの写真などを参考にしている。



まず、首の周囲を黒く絵付けする子どもが多かった。この「黒」は、あかべこ郷土玩具の特徴の一つで、牛の生命力を表現しているらしい。見本やパンフレットのあかべこも、首の周囲を黒く塗ったものが多く、子どもたちもそれを真似したようだ。



牛の背中の三本線も重要だ。これがあかべこ最大の特徴と言っても良い。細筆で一本ずつ丁寧に塗る子どももいれば、太筆で一発で大胆に入れる子どももいて、性格がよく現れる。



眼もいろいろだ。草食獣の牛も来眼は、本来顔横左右についているのだが、あかべこでは耳の間に描かれているものが多い。眼を入れると生命が宿るようで、急に愛着が湧くようだ。



あかべこの首は、本体(体)に糸で吊るされている。首の奥の細い部分は重くなっている、やじろべえのようにバランスをとっている。それでどんな角度にしても、首は水平を保っていられるのだ。